



中国は、野菜の品質と安全性に関するトレーサビリティ（生産・流通履歴を追跡する仕組み）を強化している。ブロックチェーンという最新データ管理技術を使い、追跡組を一層規範化し、データの信頼性と可視性を高めるのが狙い。



トレーサビリティ強化

中国・地球環境戦略研究機関主任研究員 金振氏

ブロックチェーン技術は、取引データを特定のサーバーに集中管理するこれまでのシステムと違い、複数のシステムに分散して保存・管理する特徴がある。改ざんが難しく、データを消すこともできない。システム全体がダウンすることも起きない利点がある。

そこで、中国は2024年1月、既存の野菜の品質と安全性に関するトレーサビリティにブロックチェーン技術を導入するためのガイドライン案を公表した。既存のトレーサビリティシステムでは、データの収集、記録、共有、追跡段階で、情報の不一致が多発した背景がある。

ブロックチェーン技術の導入に先立って、中国では長年、全国ベースで重点農産品に対する取引データベースを蓄積してきた。穀物や野菜、果物、畜産物など200品目を対象に、各品目の生産量、加工量、消費量、貿易量、価格のビッグデータを可視化し、無料で公開している。

例えば、卸売市場別、品目別取引価格がリアルタイムに表示されるだけでなく、地域ごとの価格が全国地図上で分かりやすく可視化される。農業関係者は、2013年までにこのビッグデータをさかのぼって調べられる。

また、農産品貿易データでは、品目ごとの輸出入ルート、貿易総量、輸出入国ごとの貿易総量、前年同期比の価格変動や上位輸出入地域の輸出入量のラ

流通データを可視化



ンキングも毎月報告される。ただ、ビッグデータによる一貫性が欠ける事例も発生した。この課題解決にブロックチェーン技術が導入され、野菜の品質と安全性の管理は今後、一層効率化するだけでなく、虚偽記載の根絶にもつながりそうだ。

大豆の取引情報を可視化し国別輸出入ルートを示した地図④と国別輸入量⑤（中国の全国重点農産品市場信息平台ウェブサイトから）

ンキングも毎月報告される。ただ、ビッグデータによる一貫性が欠ける事例も発生した。この課題解決にブロックチェーン技術が導入され、野菜の品質と安全性の管理は今後、一層効率化するだけでなく、虚偽記載の根絶にもつながりそうだ。